

教育環境も充実!

東京農工大学では、学業に集中できる快適な環境を整備するとともに、部活動やサークル活動などでも自由に使用できるさまざまな施設・設備を充実させています。



農学部本館

東京大学総長を務め安田講堂などの建築で知られる内田祥三氏が手がけた農学部本館。昭和9年に竣工され、平成2年には国指定登録有形文化財に登録されました。今春、リノベーションして生まれ変わりました。



2016年秋にオープンした檜寮（府中キャンパス）



学生寮

小金井キャンパスの檜寮（男子寮）、桜寮（女子寮）、府中キャンパスの楓寮（女子寮）に加え、府中キャンパスに111室の檜寮を新設しました。フロア別に男子、女子（留学生を含む）の受け入れがスタートしています。

●大学ウェブサイト

東京農工大学のウェブサイトを大幅リニューアル!

より見やすく、目的の情報に即座にたどりつくよう、シンプルなウェブサイトを目指しました。ドローンを使用して空撮した両キャンパスの映像は必見です。



●受験生向け特別サイト

受験生の気になるキャンパスライフ情報を大公開!

研究室やサークル、農工大生の1日の様子、活躍する卒業生など、学生生活の情報をご紹介します。受験生の皆様へ向けた情報もご覧いただけます。



●Facebook

学生の活躍やイベント情報、先生のメディア出演予定をお知らせします!

学生の研究成果が評価され、学会などで表彰を受けた報告や、教員の研究がマスコミで取り上げられた情報など、見どころ満載でアップしていきます。ぜひご覧ください!



●Twitter

@TUAT_all
東京農工大学の“今”をつぶやきます!

プレスリリースやイベント情報、サークルの活動、卒業生の近況など、バラエティに富んだ内容でつぶやいています。



表紙写真

農学部 共同獣医学科
獣医微生物学教室 古谷哲也研究室

獣医学と医学で重要なウイルスと原虫の病原体の研究を行っています。病原体が病気を起こすメカニズムを解明し、治療薬開発や予防法の確立を目指します。

東京農工大学基金のご案内

東京農工大学では創基140周年を迎えた2014年に、東京農工大学基金を創設しました。この基金は学生の留学支援など国際交流事業の強化や教育・研究の充実のために有効に活用してまいります。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。http://www.tuat.ac.jp/pickup/fund/index.html

TUAT Express

≡2016-2017≡

この冊子は最近の東京農工大学の活動をお伝えするものです



農学部 共同獣医学科 獣医微生物学教室 古谷哲也研究室の皆さん

CONTENTS

■活躍する卒業生 ■研究室教育 ■キャンパスライフ ■就職実績 ■大学教育改革

最先端で活躍する農工大卒業生

活躍する
卒業生

東京農工大学で学んだ卒業生たちは、学術研究分野のほか、産業界など社会で広く高い評価を受けています。第一線で活躍する卒業生2名に話を聞きました。

Agriculture

富山県
農林水産総合技術センター
園芸研究所 花き課
主幹研究員 農学博士
川部 眞登さん

東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻博士課程修了。農学博士。米ワシントン州立大学博士研究員、中央農業研究センターでの研究職などを経て、現職。富山県の職員として勤務して今年で3年目になる。



科学的アプローチで、農業の現場の課題に挑む

富山県の職員として、園芸作物の病気の研究をしています。担当するのは、チューリップなどの花が中心。最近では、トマトやタマネギのほか漢方薬などに用いる薬用作物も扱います。私の仕事は、病気の予防策や事後の対策について考えること。土壌病害の原因になるカビやバクテリアを分析し、科学的な解決方法を探ります。このほか、新しい農業技術を県内に導入する際の可否の検討や導入指導なども行います。

この仕事の面白いところは、現場の課題を解決するという明確なゴールがあること。農家さんから届く「なんとかして!」という声に応え、目に見える効果を提示できたときは、大きなやりがいを感じます。ここに来る前は、中央農業研究センターという国の機関で研究職をしてい

ました。このときは、実験室にこもって分析をしていることが多く、自分の研究がどこで活かされているのか手応えを感じづらい環境で……。今の生活は新たな研究テーマを見つける上でも有意義だと思っています。

私は大学院の修士課程まで他大学で学び、博士課程から東京農工大学の研究室に所属しました。研究テーマは「植物病理」。ここで学んだ土壌病害の原因を生体的に分析する技術は、今の仕事で大いに活かされています。また、それ以上に役立っているのは、研究過程で鍛えられた科学的根拠をもって未知の問題を明らかにする手法です。農業の世界では、各農家さんが勤と経験で積み上げたノウハウが地域ごとに蓄積されているのが通例です。これを次世代

に継承していくには、科学的なデータを用いて「勘」や「経験」を記述し直す必要があります。農家さんに技術指導をする際も同様で、農業を撒く時期や回数について、その効果をデータとともに説明すると必ず納得してもらえます。こうしたコミュニケーションの部分でも自分がこの地にいる意義があると自負しています。

農工大の生活といえば、恩師の厳しい指導を受け、ヘトヘトになりながら論文を書き上げた思い出しかありません(笑)。しかし、実験漬けの日々のなかで研究者の基本となる考え方や財産となる人的ネットワークを得ていたのだと今になって思います。みなさんもぜひ農工大で寝食を忘れて没頭できるような研究テーマを見つけてください。

Technology

日経BP社
日経エネルギーNext編集長
日経テクノロジーオンライン 編集長
山根 小雪さん

東京農工大学大学院工学研究科応用化学専攻修了。日経BP入社後、「日経コミュニケーション」、「日経エコロジー」、「日経ビジネス」の記者を経て、現職。エネルギーを中心に自動車や素材などの記事を担当してきた。



仮説～検証を繰り返した経験は、あらゆる仕事で役立つ

東京農工大学で大学院まで応用化学を学んだ後、私は雑誌記者という道を選びました。就職先は、日経BP社という経済系の出版社。きっかけは、在学中に創刊された『日経エコロジー』という環境をテーマにした雑誌でした。

高校時代から環境問題に関心があった私は、進学した工学部応用化学科で、有害な化学物質を植物や微生物で分解するという研究テーマに出合います。私が学んだ90年代には、「環境ホルモン」と総称される人体に影響を与える化学物質が大きな問題になっていて、カップ麺や弁当の容器に含まれる成分に誰もが過敏に反応していました。その解決策につながる可能性もあるテーマにやりがいを感じ、大学院への進学を決意。厳しい恩師の指導のもと実験に

没頭する日々を送りました。そして、身につけた環境に関する知識をメディアから情報を発信する仕事で活かそうと考えたのです。

現在、私は『日経エネルギーNext』という月刊誌の編集長として、雑誌の企画・編集などを統括しています。今の私の原型は、大学院修士課程の2年間で形づくられたと思っています。研究室で求められたのは、社会的な課題を解決する工学的方法を見出すこと。価値ある事実を立証するためには、論理を通ず作業も不可欠です。研究では、仮説を立て、実験を繰り返しながらデータの確度を高めます。ときには、何十回、何百回と同じ実験を繰り返すことも……。苦しい日々でしたが、「事実を伝える」という行為の本質をここで叩き込まれた気がします。

このトレーニングの成果は、取材をして記事を書くという今の仕事でそのまま役立っています。入念な下調べをして、業界や事件の背景を理解し、自分なりの仮説を立てて取材に臨む。それを繰り返すことでやっと価値ある記事が生まれるのです。また、理工系科目を幅広く学んだ知識は、最新のテクノロジーをわかりやすく伝える仕事でも大いに活かされています。

理工系の大学院で、仮説～検証を繰り返した経験は、研究者・技術者だけでなく、あらゆる仕事で役立つもの。同期の仲間も幅広い業界で活躍しています。国公立ならではの充実した研究設備と熱心な先生がいる環境で、密度の濃い学びに没頭できる農工大は、必ずみなさんの将来の可能性を広げてくれるでしょう。

研究室で身につく専門性と社会人力

東京農工大学の学びの拠点はなんといっても研究室。
熱心な教員の丁寧な指導のもとで専門性と社会人力が鍛えられます。

Protein Chemistry

農学部 応用生物科学科 応用蛋白質化学研究室

コラーゲンの効果を解明し、機能性食品に応用

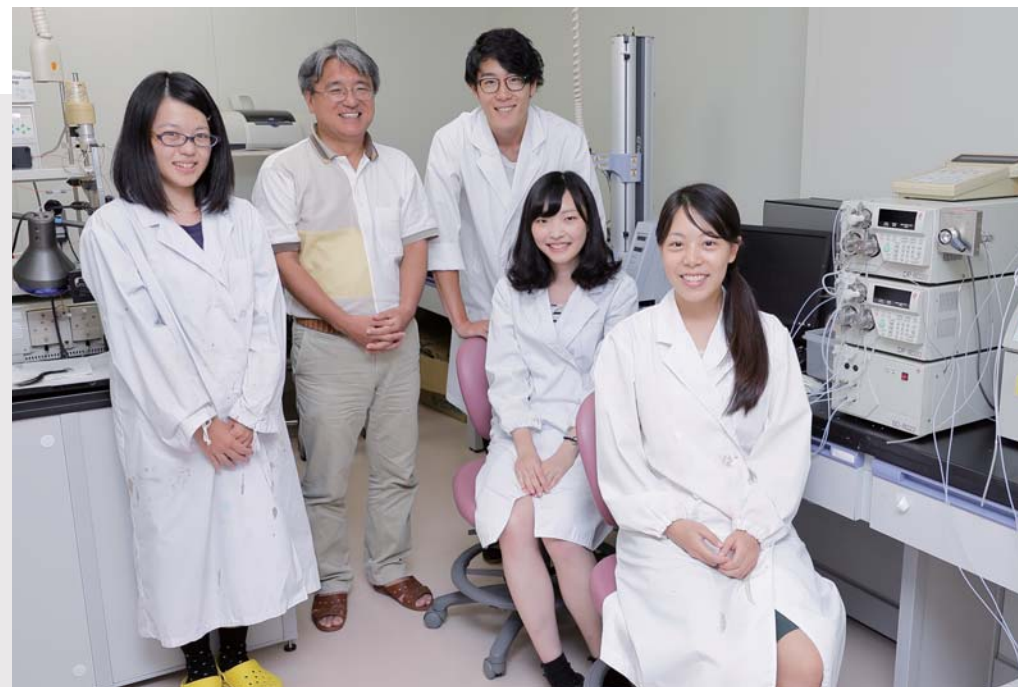
化粧品に含まれる成分として知られる「コラーゲン」の研究をしています。コラーゲンは動物の体を構成する主要なタンパク質。「食べれば肌が潤う」とされるコラーゲンをモデル動物に投与し、骨や皮膚への有効性を明らかにしています。特に注目しているのが、「食べて効果を示すメカニズム」の解明です。「コラーゲンを食べても肌に効果はないのでは？」という議論もあります。当研究室の見解はこうです。結論から言うと、コラーゲンを口から入れても皮膚にコラーゲンのまま吸収されることはありません。コラーゲンは、体内の酵素でアミノ酸だけでなく、ペプチドで吸収されます。これらが皮膚の細胞を活性化し、組織内のコラーゲン・ヒアルロン酸の産生量を増加させることがわかりました。つまり、食べたコラーゲンは、体内で別のコラーゲンを再合成する手助けをしているのです。

研究室では、こうした体内のメカニズムを分子レベルで解明するだけでなく、コラーゲンを機能性食品として応用する研究も行っています。コラーゲンは、皮膚だけでなく、骨にとっても重要な成分です。コラーゲンが骨の柔軟性を高め、骨折を防ぐことで骨粗しょう症の予防にも役立ちます。

製品化されるコラーゲンの原材料は、ウシやブタの骨や皮が主流でしたが、最近はサメ皮から精製する研究も行っています。原材料から成分を精製し、製品化するまですべての工程を経験できるのが当研究室の強みでしょう。食品・医薬品メーカーとの共同研究も盛んで、同業界へ就職する学生も数多くいます。



農学部
硬蛋白質利用研究施設
野村 義宏 教授
東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程修了。農学博士。研究分野は、生物資源科学、畜産学、医用生体工学・生体材料学ほか。



企業との共同研究が盛んな野村教授の研究室では、その成果が製品化につながった事例も多数ある



皮膚の水分量を測定中。研究室では、多くの女子学生が活躍している

Biomimetic Control for Friction Drag Reduction in Wall Turbulence

工学部機械システム工学科 熱流体システム設計分野 岩本研究室

世界の乗り物をすべてエコにしよう！

研究テーマは、航空機や新幹線などの「省エネ化」です。具体的には、こうした高速輸送機器の乱流摩擦抵抗によるエネルギー損失を抑制する基礎技術を開発しています。「乱流」とは、その名の通り、乱れた流れのこと。乗り物のまわりの流れを乱れた状態からキレイにすることで、大きな省エネ効果が期待できます。

乱流は適切な制御をすることで、劇的に性質が変化します。それがこの研究の面白いところ。これは、機械工学の基本である「4力（よんりき）」のひとつ「流体力学」をベースとする研究分野になります。

乱流を制御するために、私が目をつけたのがBiomimetics（バイオミメティクス）です。これは、



工学部
機械システム工学科
岩本 薫 准教授
東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了。専門は環境負荷低減を目的とした熱・流体の制御技術。2007年から東京農工大学で指導にあたる。

動物をモデルとして、乗り物の表面の形状などを研究する分野。例えば、水中で高速で泳ぐサメの肌を分析すると表面に微細な溝（リブレット）があるのがわかります。そこで、サメ肌を模した規則的な溝のある壁面を開発し、表面の空気抵抗を調べます。実験では、まずコンピュータのシミュレーションで表面の流れを解析。理想的な壁面の形状が見つかったら、実物のモデルを作成し、さらに測定を繰り返します。その結果、研究室で開発したサメ肌を模した3次元構造の微細なリブレットが、約12%という世界最大の抵抗低減効果を示すことを確認。リブレットをジェット機の壁面として採用するJAXAとの共同研究も進んでいます。

研究と並行して、プレゼンスキルの養成にも力を入れています。研究室のメンバーには必ず月イチの発表を課し、英語発表にも挑戦してもらいます。在学中にメンバー全員が海外での学会発表を経験するのが目標です。



レーザーを用いて空気の流れを測定する大規模な実験装置。充実した研究設備は東京農工大学ならでは



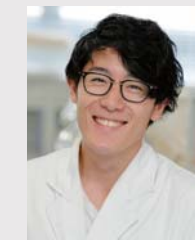
レーザー光線を用いてイルカ肌を模した微振動壁面を測定中



大学院農学府
応用生命化学専攻 修士2年
柿田ひとみさん
長崎県立長崎西高校出身
ラクトフェリンという乳蛋白質が光による皮膚の老化を改善する効果を研究しています。在学中に企業との共同研究も経験。この成果が評価され乳業メーカーへの就職が決まりました。



大学院農学府
応用生命化学専攻 修士2年
上濱 春佳さん
私立鷗友学園女子高校出身
プロテオグリカンという糖蛋白質が変形性膝関節症を改善する効果を調べています。就職予定の食品メーカーでは、研究室で身につけた知識や技術を商品開発の仕事に活かしたいです。



大学院農学府
応用生命化学専攻 修士1年
丸山 拓馬さん
私立芝高校出身
研究テーマは、変形性膝関節症の原因解明です。膝関節内の環境を試験管内に再現し、加圧実験などを行って、炎症の原因を探ります。医療分野で役立つ研究にやりがいを感じています。



工学部 機械システム工学科 4年
山西 溪太さん
山梨県立甲府第一高校出身
パイプラインに流体を流す際の摩擦抵抗低減を目的とした研究をしています。岩本研究室は、先生から1対1で指導してもらえ、時間が多く、学びの密度の高さが魅力だと思います。



大学院工学府
産業技術専攻 修士2年
藤野 大地さん
神奈川県立小田原高校出身
S字が連続したような形状の「正弦波状リブレット」を開発しています。レーザーを使った本格的な実験装置で空気抵抗を調べます。就職予定の機械メーカーでも実験スキルを活かしたいです。



大学院工学府
機械システム工学専攻 修士1年
吉永 憲史さん
東京都立大泉高校出身
メーカーとの共同研究で、自ら開発したりブレットを自動車のエンジンに取り付ける実験に力を入れています。プロの技術者の方から直接アドバイスをもらえるのは大きな刺激になります。

農工大生はサークル活動も全力投球!!

東京農工大学では、共通の興味をもった学生が運動部や文化系サークルなどに集い、アクティブに活動しています。講義や実験と並行して、充実したキャンパスライフを送り、より豊かな人間性を育てている4団体を紹介します。

昆虫研究会

TUAT KONKEN



上段中央が会長の井出さん。他に女子メンバーも多数います。OBには、有名な昆虫写真家、海野和男さんも!



図鑑で見た虫が動く姿をリアルに見る美しさは格別!

農学部 地域生態システム学科 3年 井出 征一郎さん

北は北海道、南は沖縄まで、全国津々浦々に出かけて昆虫採集を行います。マレーシア、インドネシアなど、海外まで採集に行くメンバーもいます。高尾山や奥多摩など近場も格好の採集地で、アオタマムシなど珍しい虫が探せます。メンバーは農学部生中心に28人。クワガタ、カブトムシ、チョウ、ガなどの流派があり、気が合うメンバーを募って、自由に採集に出かけるスタイルで、多い人は年100日以上、採集に出ています。採集先では、景色や温泉などを楽しんで旅気分も満喫できるのも魅力。標本づくりや飼育、写真撮影なども行います。図鑑で見ている虫がリアルに動く姿を大自然の中で見る美しさは格別ですよ!

航空研究会

NoKoLAT



現在、メンバーは約40名。コンテスト出場前は毎日深夜まで製作に励んでいる。一番左が代表の猿橋さん

オリジナルのラジコン飛行機やモデルロケットを製作

工学部機械システム工学科 2年 猿橋 大さん

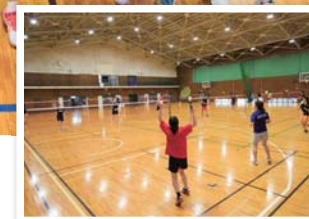
毎年8月に開催される「全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」に向けて、主にラジコン飛行機の製作を行っています。出場するのは「自動操縦部門」。離陸→旋回→着陸までをマイコン制御で行います。メンバーで、胴体、翼、電装系、プログラミングなどの担当を決め、チームとしてコンテストに臨むのが楽しいところです。また、毎年3月に開催される「種子島ロケットコンテスト」出場に向けたモデルロケットも製作。話題のドローンを扱っているメンバーもいます。飛行機好きはもちろん、ものづくりにこだわりを持っている人なら大歓迎! 部室はいつもアットホームな雰囲気なので、友達づくりに最適ですよ。

バドミントン部

TUAT Badminton Club



毎週土曜の午後は府中キャンパスの体育館全面を使って練習ができます。中央手前の黒いTシャツが部長の須谷さん



実験やレポートで疲れたらスマッシュを決めて気分転換!

工学部電気電子工学科3年 須谷 瑞樹さん

関東学生バドミントン連盟の春季・秋季リーグ戦に向けて練習に励んでいます。現在は男子6部、女子4部から昇格を目指しているところ。週3回の練習に加え、日曜の自主練も行い、メンバー全員で、レベルアップに取り組んでいます。部員は約60名。インターハイ出場経験者もいれば、初心者の方部員もたくさんいます。春・秋のリーグ戦のほか、国公立大や理工系大学の大会もあるので、全員に試合出場のチャンスが必ずあります。「コートでは厳しく、コート外では楽しく」がモットー。毎年、夏合宿やキャンプに多くのメンバーが参加しています。実験やレポート作成で疲れたとき、コートでスマッシュを決めるとスカッとしますよ!

落語研究会

TUAT OCHIKEN



手前が会長の小田切さん。高座名は「無無家やす氏(うむがやすし)」。座右の銘がそのまま高座名になったのだとか

古典落語の奥深い世界を探究しています!

工学部物理システム工学科3年 小田切 雅樹さん

主に古典落語の演目を練習し、年6回の公式落語会で披露しています。落語会は、100名ほど収容できる劇場などを借りて行います。毎週土曜の活動のほか、メンバー同士で集まって、浅草や上野にプロの落語を見に行ったりもしています。古典落語の世界は、知れば知るほど奥深く、謎は深まるばかりです。メンバーは農学部4人、工学部8人の計12人。各自が高座名を持っていて、2つ上の先輩をつけるのが伝統になっています。メンバーは個性派ぞろいで、中国からの留学生もいます。落語やお笑いが好きな人なら、きっと楽しめるはず。毎年、「農工祭」でも落語会を開催しているので、ぜひ一度遊びに来てください!

就職実績も堅実！農工大生の進路

2015年度実績 2016年5月1日現在

就職実績

東京農工大学の卒業生・修了生は、就職先から高い評価をいただき、毎年多くの求人募集が届きます。一般企業や官公庁、

地方自治体などで社会人としての歩みをスタートさせ、さまざまな第一線で活躍しています。

農学部

【生物生産学科】 経済産業省、文部科学省、東京都、飯能市、佐久浅間農業協同組合、農事組合法人成田ガイヤ、ニチレイグループ、日本たばこ産業、日本ハム、やまびこ、協和発酵バイオ、ウイング、農中情報システム、三洋貿易、正栄食品工業、東京青果、住商フーズ、草津ナウリゾートホテル、ライフシールド、多摩動物園、進学／東京農工大学(30名)、京都大学、東京大学(2名)

【応用生物科学科】 ティーjee情報ネットワーク、フードディスカバリー、ライフ、日本生命保険相互会社、星野リゾート、静岡レディースクリニック、マネージメントソリューションズ、進学／東京農工大学(56名)、横浜国立大学、京都大学(2名)、東京大学(4名)

【環境資源科学科】 東京都(2名)、ジョンソンコントロールズ、東急建設、ナチュラルキッチン、進和テック、パナソニック、中国木材、東京ガス、NTTコムソリューションズ、双日システムズ、東日本電信電話、JFE商事、ナイス、日本保険サービス、アステラス分析科学研究所、講談社、アジア航測、パラドックス、進学／東京農工大学(33名)、京都大学(5名)、東京大学、琉球大学

【地域生態システム学科】 林野庁、埼玉県、千葉県(2名)、長野県警、東京都(8名)、川崎市、国際農業者交流協会、農業生産法人こと京都、エルゴテック、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京、独立行政法人都市再生機構、日本工営、メーブル、東京ガス、ネットワークシステムズ、エコラボ合同会社、エコーブ関東、大和証券、アニコム損害保険、四門、CSS技術開発、NTCコンサルタンツ、モノリス、いまでや、医療法人社団同友会、京業興業、進学／東京農工大学(25名)、京都大学(3名)、九州大学、首都大学東京、東京大学(2名)、名古屋大学

【共同獣医学科】 厚生労働省、農林水産省(2名)、岡山県、神奈川県、千葉県、長崎県、東京都、高崎市、川崎市、カゴメ、伊藤忠飼料、富士レビオ、共立製薬、帝人ファーマ、日本中央競馬会、さくら動物病院、末松どうぶつ病院、ゼファー動物病院、ダクダ動物病院、たぐち動物病院、ドルフィンアニマルホスピタル、マーブル動物病院、めい動物病院、岸上獣医科病院、光が丘動物病院グループ、西荻動物病院、目黒動物病院、神奈川県農業共済組合、全国農業協同組合連合会、アワーズ、公益財団法人東京動物園協会、進学／岐阜大学、大阪大学、東北大学

農学府

【生物生産科学専攻】 農林水産省(2名)、千葉県(2名)、福井県、全国農業協同組合連合会、UCC、伊那食品工業、日本コーンスターチ、味の素ゼネラルフーズ、明治、日本製紙、朝日工業、北興化学工業、ツムラ、大塚製薬、iCAD、キューソー流通システム、三井物産、JAマイズ、生活協同組合コープみらい、春日部共栄高校、進学／東京農工大学(3名)

【共生持続社会学専攻】 神奈川県、全国農業会議所、アリアケジャパン、エスピー食品、ヤマハ、東日本電信電話、世中、日本政策金融公庫、領日観光、学校法人武南学園、イーサポートリンク、システムエグゼ

【応用生命科学専攻】 特許庁、東京都、横浜市、アサヒフードアンドヘルスケア、アサヒ飲料、イトアンド、キュービー(2名)、ケンコーマヨネーズ、ニチレイフーズ、ハウス食品、ヤマザキ・ナビスコ、丸美屋食品工業、月島食品工業、高砂香料工業、新宿中村屋、創味食品、日清フーズ、日清食品、武蔵野フーズ、明治、ADEKA(3名)、クマイ化学工業、サンスター、ニチレイバイオサイエンス、積水化学工業、日本ゼトック、日油、花王、日新製薬、三井物産ケミカル、メディサイエンスプランニング、一般財団法人阪大微生物病研究会、星野リゾート・マネジメント、日本総合研究所、WDBエウレカ、進学／東京農工大学(2名)

【生物制御科学専攻】 農林水産省、カネコ種苗(2名)、MCフードスペシャリティーズ、クノール食品、雪印メグミルク、クマイ化学工業、信越ポリマー、北興化学工業、Meiji Seikaファルマ、小林製薬、富士薬品、JALUX、ステリックエムシー、シラフ、農林水産消費安全技術センター、進学／東京農工大学(3名)

【環境資源物質科学専攻】 愛知県、住友林業、大建工業(2名)、大和ハウス工業、日清紡ホールディングス、巴川製紙所、ハイモ、関西ペイント、朝日ウッドテック、エヌ・ティ・ティ・コムウェア、鉄道情報システム、一般財団法人材料科学技術振興財団、進学／東京農工大学(4名)

【物質循環環境科学専攻】 林野庁、埼玉県、日比谷アメニス、ヤヨイサンフーズ、サイエンス、住友化学、アストラゼネカ、コニカミノルタ、栗田工業、水ing、東芝ソリューション、東洋ビジネスエンジニアリング、日立ソリューションズ、小田急ランドフローラ、進学／東京農工大学

【自然環境保全科学専攻】 農林水産省、埼玉県、神奈川県(2名)、東京都(3名)、横浜市、日野市、バシフィックコンサルタンツ、日本フェルト、パスコ、日建技術コンサルタント、東京都市大学等々力中学校・高等学校、土浦農業協同組合、進学／ソウル大学、東京農工大学

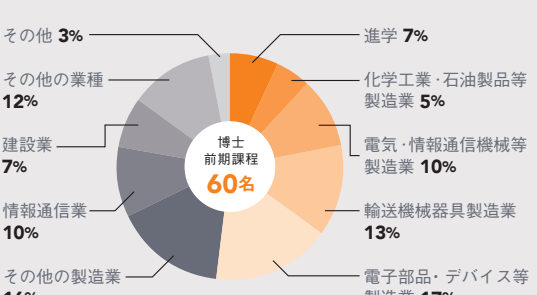
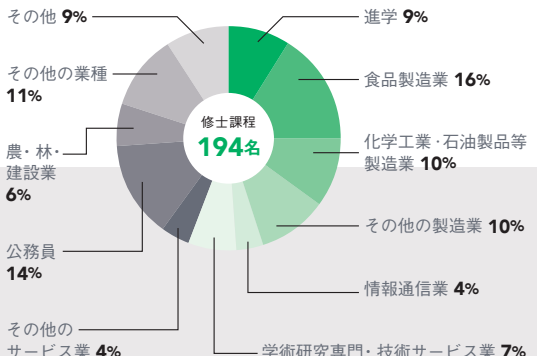
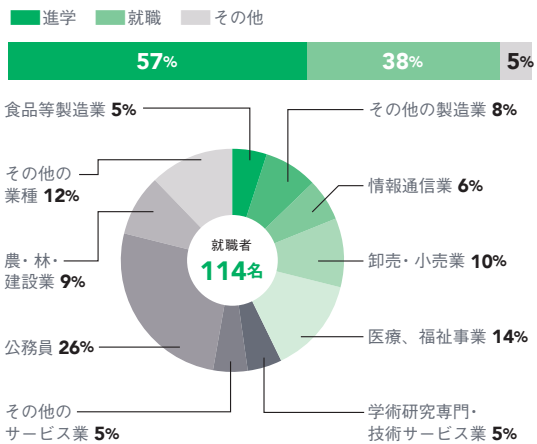
【農業環境工学専攻】 農林水産省、静岡県、日清食品、三菱マテリアル、クボタ、農研機構生研センター、NTCコンサルタンツ、サンスイコンサルタント、バシフィックコンサルタンツ、社団法人農協共済総合研究所、バリューマネジメント、国立研究開発法人森林総合研究所、進学／東京農工大学

【国際環境農学専攻】 農林水産省、埼玉県、千葉県、さいたま市、霜見農場、アートコーヒー、日本製粉、出光興産、ジョンソン・エンド・ジョンソングループ ヤンセンファーマ、双日ベトナム、長瀬産業、日本政策金融公庫、農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所、Yezin Agricultural University(2名)、日本工営、Rural Restructuring Agency under Ministry of Agriculture and Water Resources, Uzbekistan、進学／東京農工大学

生物システム応用科学府

【生物システム応用科学専攻】 警視庁、埼玉県、徳島県、ライオン、REEF Chemical Industries Complex、大塚電子、リンテック、東ソー、アドバンテスト、三菱電機、中国科学院、沖縄科学技術大学、アウトソーシングテクノロジー、アース環境サービス、JFEエンジニアリング、日産自動車、日産車体、日本放送協会、全国農業協同組合連合会、国際航業、清水建設、大林組、東洋ライズ、日東富士製粉、わらべや日洋、レンゴー、大日精化工業、太陽ホールディングス、テクセリアルズ、カワダロボティクス、小田原エンジニアリング、栗田工業、大川原化工機、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ、キャノン(3名)、コニカミノルタ(2名)、シチズン時計、住友電気工業、トプコン、日立アロカメディカル、横河電機、アズビル(2名)、東芝(3名)、クボタ、豊田自動織機、日野自動車(2名)、本田技研工業、東芝エレベータ、高田製薬、三笠製薬、アストモスエネルギー、CJ、KDDI、ヴァル研究所、昭和システムエンジニアリング、レジェンド・アプリケーションズ、富士通、産業技術総合研究所、VSN、経済産業省 開成町、進学／東京農工大学(4名)

【共同先進健康科学専攻】 アポットジャパン、クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン



工学部

【生命工学科】 宮崎県、サムシングホールディングス、イトウ製菓、内外化学製品、アステラスファーマテック、エヌデーデー、みずほ情報総研、東テック、三菱東京UFJ銀行、ゆうちょ銀行、リオ・ホールディングス、高エネルギー加速器研究機構、アイアンドエルソフトウェア、進学／大阪大学、東京農工大学(66名)、東京医科歯科大学、東京大学(5名)

【応用分子化学科】 東洋インキSCホールディングス、TDK、キャノンマーケティングジャパン、富士重工、太平洋マテリアル、アビームコンサルティング、進学／京都大学、東京大学、千葉大学(2名)、北陸先端科学技術大学院大学、東京農工大学(35名)

【有機材料化学科】 山形県、タイカ(2名)、大日精化工業、デュボン、東洋合成、アズビル、横浜ゴム、進学／東京農工大学(39名)、名古屋大学、北陸先端科学技術大学院大学、京都大学

【化学システム工学科】 三機工業、三菱マテリアルテクノ、ビームス、シー・キューブ・アイ・システムズ、イマジカデジタルスケープ、富士急ハイランド、進学／東京農工大学(37名)

【機械システム工学科】 八王子市、帝国繊維、東海ドック工業、VSN、メイズ(2名)、国際石油開発帝石、日本発条、日立金属、新日鐵住金、日新製鋼所、ヤンマー、安田工業、小松製作所、日本精工、日立産業制御ソリューションズ、シャープ、パナソニック、日本航空電子工業、富士ゼロックス、クロバーターボ、ジョンソンコントロールズ、スズキ、ソーシン、ティラド、日立造船、日産自動車、日野自動車、日本音響エンジニアリング、シグマトロン、山九、日立ハイテクノロジーズ、トラストテック、進学／東京農工大学(90名)、東京大学(4名)、東北大学、名古屋大学、京都工芸繊維大学(2名)

【物理システム工学科】 検査庁、IHIインフラ建設、JFEエンジニアリング、コスモ計器、小松製作所(2名)、アウトソーシングテクノロジー、アズビル、サクサ、日本電気(2名)、中部電力、アドバンスデザインテクノロジー、ネオス、ユー・エス・イー、東日本高速道路、普通士学園中学校・高等学校非常勤教員、進学／首都大学東京(2名)、大阪大学、東北大学、東京大学(2名)、北陸先端科学技術大学院大学(5名)、東京農工大学(31名)

【電気電子工学科】 湯上市、第一電機工業、帝人、住友電装、ルネサスエレクトロニクス、パナソニックITS、マツダ、ヤマハ発動機、洗陽電機、ジスイノフォテクノ、農中情報システム、みずほ銀行、クリーク・アンド・リバー、ティーネットジャパン、山九、進学／奈良先端科学技術大学院大学(2名)、東京工業大学(2名)、東京農工大学(90名)

【情報工学科】 FBS、NECソリューションイノベータ、NSSLCサービス、ウェブステーション、エフコム、コトブキソリューション、セガゲームス、ティルス、レジェンド・アプリケーションズ、全農ビジネスサポート、進学／東京農工大学(50名)、北陸先端科学技術大学院大学、京都大学、東京大学

工学府

【生命工学専攻】 八王子市、キュービー(2名)、第一三共(2名)、ユークレナ、NBCメッシュテック、凸版印刷、小川香料、クレハ、広栄化学工業、興和、三和油化工業、大成ラミック、ブリヂストン、三菱鉛筆、日鉄住金環境、村田製作所、日立製作所、アステラス分析科学研究所、オリンパス(2名)、佐藤製薬、ジャスコインタナショナル、デンカ生研、ノボ ノルディスク ファーマ、ライオン、旭化成アミダス、オネスト、テックエスエンジニアリング、日本アイビーエム・ソリューション・サービス、ビーダッシュ、横河医療ソリューションズ、イービーエス(2名)、一般財団法人材料科学技術振興財団、エイアンドティー、エイツーヘルスケア、協和メデックス、クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン(2名)、埼玉県教員、サントリー、栄研化学、パレクセル・インタナショナル、日本能率協会コンサルティング、中京テレビ放送、進学／東京農工大学(9名)、東京医科歯科大学

【応用化学専攻】 経済産業省、IHIプラントエンジニアリング、大林組、千代田化工建設、日揮、三菱化学エンジニアリング、クノール食品、新田セラチン、ロッテ、大日本印刷、トッパン・フォームズ、JNC、NOK(2名)、アイカ工業、宇部興産、クレハ、コスモエンジニアリング、第一三共、ダイセル、帝人、ニチアス、日本ゼオン、日本ペイント、日立化成(2名)、富士フィルムファインケミカルズ、富士紡ホールディングス、ブリヂストン、三菱瓦斯化学、出光興産、信越化学工業、大日精化工業、東京化成工業、森永製菓、三菱マテリアル、旭ダイヤモンド工業、ジーシー(2名)、パウレック、理想科学工業、FLOSFIA、オリンパス、コニカミノルタ(2名)、東芝、三菱電機、リコー、カルソニックカンセイ、小糸製作所、日立オートモティブシステムズ(3名)、IHI、小川香料、オルガノ、河合楽器製作所、ニチハ、古河電池、寺岡製作所、太陽日酸東関東、東日本電信電話、茨城県教員、特定独立行政法人国立病院機構、地方共同法人日本下水道事業団、進学／東京農工大学(12名)

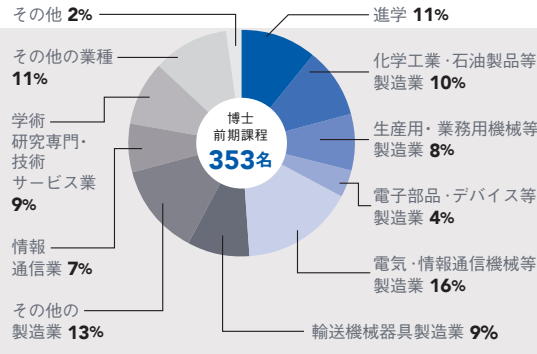
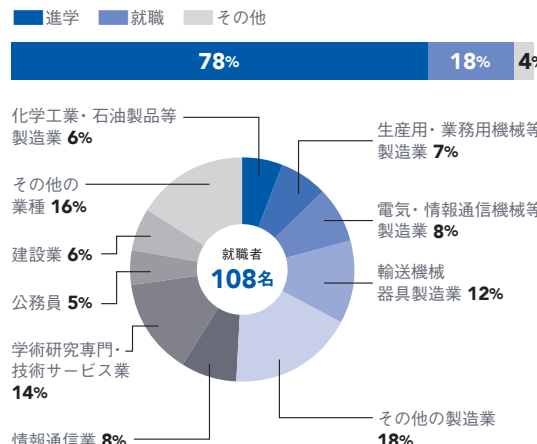
【機械システム工学専攻】 東京都(2名)、東急建設、東洋エンジニアリング、日揮、雪印メグミルク、東レエンジニアリング、ブリヂストン、旭化成、出光興産、古河機械金属、JFEエンジニアリング、JFEスチール、新日鐵住金、日本発条(2名)、IHI、IHI運搬機械(2名)、クボタ、ダイフク、荏原製作所、住友重機械工業、小松製作所(2名)、日本テックシード、オリンパス、ニコン、アズビル、カシオ計算機、シスメックス、セイコーエプソン、パナソニック、ブラザー、横河マニュファクチャリング、横河電機、三菱電機、東京エレクトロン(2名)、東芝、日立アプライアンス、能美防災、富士通、富士電機、川崎重工業(2名)、UDトラックス、カルソニックカンセイ、スズキ、トヨタ自動車、本田技研工業(2名)、三井造船、東芝エレベータ、東日本旅客鉄道、日産自動車(2名)、日野自動車、YKK、ゼブラ、ヤマハ、大日本印刷(2名)、DMM.comラボ、アルファシステムズ、エヌ・ティ・ティ・データ、丸紅情報システムズ、シンプレックス、日水コン、独立行政法人都市再生機構、進学／東京農工大学(6名)

【物理システム工学専攻】 東京都、住友金属鉱山、フジクラ、カシオ計算機、コニカミノルタ、小松製作所、ジョンソンコントロールズ、住友電装、ミツトヨ、理想科学工業、セイコーインスツル(2名)、日亜化学工業、SMK、アンリツ、ソニー(3名)、東陽テクニカ、横河電機、日立製作所(2名)、JR東日本テクノロジー、マツダ、能美防災、ソフトウェアシステム、進学／東京農工大学

【電気電子工学専攻】 東京都、きんでん、三菱電機ビルテクノサービス、日立ビルシステム、森永製菓、大日本印刷、出光興産、フジクラ、荏原製作所、クボタ、小松製作所(2名)、住友重機械工業、ファナック、TDK(2名)、日本航空電子工業、ルネサスエレクトロニクス、アイコム、アズビル、住友電気工業、ソニー(2名)、東芝、ニコン、日本電気(2名)、バイオニア、日立国際電気(2名)、富士通、三菱プレジジョン、横河電機(2名)、リコー、東芝(2名)、スズキ、トヨタ自動車(2名)、日産自動車(2名)、本田技研工業(2名)、マツダ、川崎重工業、四国電力、東京電力、電源開発、KDDI(2名)、エヌ・ティ・ティ・データ、ナビタイムジャパン、富士電機ITセンター、東京都立産業技術研究センター、宇野製作所、Wave Technology、進学／東京農工大学(5名)

【情報工学専攻】 カシオ計算機、ソニー、パナソニック、富士通、三菱電機、日本電気(3名)、日本電子、日立製作所、トヨタ自動車、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(2名)、エヌ・ティ・ティ・データ、日本電信電話、NTTデータアイ、Playport(2名)、エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ、エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア(2名)、オリエンタルインフォメーションサービス、ぐらなび、サイバーエージェント、ドリコム、ナビタイムジャパン、ニッセイ情報テクノロジー(2名)、ニューソン、フィードフォース、フロムソフトウェア、マーベラス、ヤフー(2名)、東芝ソリューション、富士ソフト、夢テクノロジー、トムス・エンタテインメント、ハノイ工科大学、リクルートホールディングス(2名)、NTTデータグローバルソリューション、進学／東京農工大学(5名)

【産業技術専攻】 インターネットイニシアティブ(2名)、セリオ国際特許商標事務所、JXエンジニアリング、クラブウ、マイクロジェット、NOK、興国インテック、東洋ドライループ、ハリマ化成、藤森工業、三菱化学、JFEスチール、古河機械金属、日鉄住金テクノロジー、東京精密、オリンパス(2名)、大同精密工業、浜松ホトニクス、セイコーエプソン、ソニー、パナソニック、横河電機、日立製作所、トヨタ自動車、日産自動車、日野自動車、本田技研工業、ヤマハ発動機、三井造船、富士重工、IHI、共同カイテック、ソネット、ランドコンピュータ、富士ソフト



農工大のグローバル・コミュニティ

大学教育
改革

茨城大学、首都大学東京とともに、2014年に文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の採択を受けたAIMSプログラム* 東南アジア諸国を中心とした国際的學生交流プログラムの現場の声をお届けします。

*AIMSプログラム=ASEAN International Mobility for Students Program。



帰国後はAIMS学生パディの代表として

工学部電気電子工学科2年 日野眞生さん
(東京都立西高校出身)

留学先 マレーシア・マレーシア工科大学
クアラルンプール校(10日間)

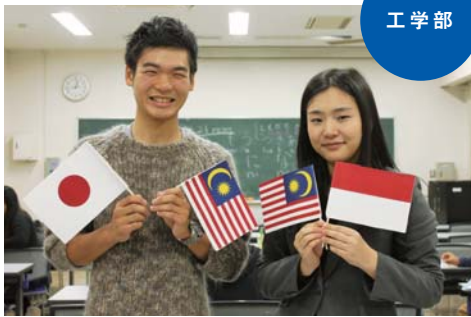
現地では初めて専門科目を英語で授業聴講しましたが、現地の学生とグループワークで授業がすすめられ、授業の内容も面白いと感じることができました。授業後は、現地の学生がいろいろな場所に案内してくれ、英語でのコミュニケーションがとても楽しかったです。帰国後は、留学生をサポートする「パディ」活動の学生代表として、「今度は自分たちの番！」と留学生のサポートに取り組んでいます！



AIMSパディ活動の一環として、「ハイテクジャパン」のプログラムを実施。留学生と日本人学生がグループを組み、日本の最先端科学技術についてリサーチをしました！

短期留学生

工学部



写真左から日野眞生さん、岩崎円花さん。AIMS学生パディの活動として、「日本語チュートリアル」を実施。背景は授業模様

苦手な英語をAIMSで克服

工学部情報工学科2年 岩崎円花さん
(私立鶴友学園女子高校出身)

留学先 マレーシア・マレーシア工科大学
クアラルンプール校(10日間)

高校時代は英語が苦手でしたが、大学でパディ活動をするうちに英語への抵抗が消え、思い切ってAIMSの短期プログラムに応募しました。マレー系、中国系、インド系と多文化が混ざり合うマレーシアで多様な学生と触れ合うことができ、いい刺激を受けました。専門分野に関する英語の知識など、長期留学を目指す際の課題が明確になりました。また、マレーシアに多くの友達ができ、今でも英語を使って、SNS上で交流を続けています。



短期研修では世界的な企業、エアバスを訪問。ヘリコプターの操縦シミュレーションにも挑戦しました！

に参加した学生のコミュニティが広がっています。

卒業研究のフィールドワークができた

農学部生物生産学科4年 齋藤かやさん
(国立東京学芸大学附属国際中等教育学校出身)

留学先 インドネシア・ボゴール農科大学 (5か月間)

卒業研究のテーマである「バイオ肥料」の知識を深めたいと考え、インドネシアの大学に留学しました。現地では、植物生育促進根圏細菌研究の第一人者である教授と地元の農業施設を訪問。農法だけでなく、地域社会との関わり方や子どもたちへの農学教育についても知ることができました。将来の夢は、「バイオ肥料」のビジネスに関わること。大学や留学先での研究成果を、東南アジアの次世代の農業現場でも役立てたいですね。



現地で緑化運動の活動にも参加

英語で議論をする度胸がついた！

農学部応用生物学科4年 常藤加菜さん
(私立桜蔭高校出身)

留学先 インドネシア・ボゴール農科大学 (5か月間)

将来は海外を舞台にバリバリ働きたいという夢があるのですが、英語が大の苦手です……。とにかく留学を経験すべきだと考え、AIMSプログラムに参加しました。現地では、発酵や衛生管理、食品の官能検査に関する授業を履修。インドネシア人学生と英語でディスカッションをする環境に飛び込んだことで、かなり英語で話す度胸がつかえました。こうした交流を通じて日本とアジアの文化の橋渡しをする仕事にも興味が出てきました。



イスラム教の食生活にも興味が出てきた

現場を見て問題意識が高まった

農学部 地域生態システム学科4年 小柳賢太さん
(大分県立上野丘高校出身)

留学先 マレーシア・ブトラ大学 (5か月間)

熱帯林の破壊に関心があって、東南アジアで現場を見たいと考えました。留学先のブトラ大学では、林学部の授業を履修。「流域管理学」の授業では、行政機関の方の案内で河川工事の現場を見学することもできました。また、滞在中にインドネシアの森林火災に起因する越境大気汚染を身体で経験。健康被害を目の当たりにして、問題意識が高まりました。解決すべき課題が豊富にある東南アジアで、森林科学を学ぶ価値を大いに実感しました。



熱帯林でのフィールドワーク



農学部

海外からの留学生

写真左からNeeranuch Cholpatinunさん、Muhammad Wiryahardiant Kuntoさん

農業で地域活性化に貢献したい！

Neeranuch Cholpatinunさん
タイ・カセタート大学在学中

在学するタイの大学で、200名の応募の中から3名の奨学生に選ばれ、東京農工大学に来ることができました。専門は、花や野菜の栽培。農工大では、日本語を学びながら、アサガオの研究にも取り組んでいます。日本の高度な実験機器を使って、蛋白質の研究などもしてみたいです。農学部のカンパスは緑がいっぱいで、とても過ごしやすいです。将来は、王室のプロジェクトに参加して、農業分野で地域活性化に貢献したいです。

水耕栽培ビジネスを成功させたい

Muhammad Wiryahardiant Kuntoさん
インドネシア・ガジャマダ大学在学中

大学で農業経済学を学びながら、2015年から農作物の水耕栽培ビジネスを始めています。そこで、日本の最新の水耕栽培技術を学びたいと考え、東京農工大学に留学しました。フィールドスタディでは、埼玉県内のグリーンハウスを見学。日本の四季に合わせた複雑な温度調節が可能な技術に驚きました。授業以外では、バスケットボール部の練習に参加したり、日本人のパディ学生と鎌倉に遊びに行ったりして、放課後もエンジョイしています！

大学院進学の夢が見つかった！

Mikaela Jun M.Lenonさん
フィリピン・フィリピン大学ディリマン校在学中

コンピューター・サイエンスとエンジニアリングについての知識を深めるために東京農工大学に来ました。研究テーマに選んだのは機械学習です。最初は苦勞しましたが、徐々にロジックを理解できるようになりました。小金井キャンパスは緑が多く、学生たちも親切で、とても居心地がいいです。帰国して大学を卒業したら、お金を貯めて大学院に行きたいです。日本で多くのすばらしい仲間に出会い、影響を受けて夢が大きく広がりました。

エンジニアとして起業するのが夢

Al Razeed Bin Zamriさん
マレーシア・マレーシア工科大学在学中

豊富な留学生の受入れ実績、都心に近い立地、そして研究レベルの高さが、東京農工大学を選んだ理由です。日本に来て、日本人の勤勉さや几帳面さ、そして交通網を含め、街全体が整っていることに感動しました。ただ、イスラム教徒用のハラールフードを探すのはかなり大変。それでも先生やパディ学生がサポートしてくれるのでストレスを感じることはありません。帰国後、大学を卒業したら、プロのエンジニアになって会社を興すのが夢です。



農学部

写真左から齋藤かやさん、常藤加菜さん、小柳賢太さん

留学生活は発見と挑戦の連続

工学部物理システム工学専攻修士1年 山田啓祐さん
(埼玉県立松山高校出身)

留学先 インドネシア・バンドン工科大学 (5か月間)

大学で物理に関する幅広い分野を学ぶ中で、進路について悩みました。物理+グローバルな視点という組み合わせは面白いと思い留学を決意しました。第一期生である私をインドネシアで待っていたのは、発見と挑戦の連続という刺激的な毎日。少しずつ自分のアイデンティティが確立されていくのを感じました。現地では、過去に学んだ基礎や原理を応用できるセンサーを研究内容に選択。ここで習得した考え方は、他の多くの研究でも役立つと考えています。



留学後、再度インドネシアに戻り、現地の指導教員と再会したり、また現地小学校を訪問して日本とインドネシアの文化交流の架け橋となる活動を続けています

セメスター留学

工学部



写真左から山田啓祐さん、森岡俊行さん

優秀な仲間から刺激をもらった

工学部電気電子工学科4年 森岡俊行さん
(岐阜県立岐阜高校出身)

留学先 インドネシア・バンドン工科大学 (6か月間)

プロジェクトの一つとして、監視カメラ等に使われる人物認識や人物探知を行うためのアルゴリズムをプログラミングし、ハードウェアに実装するという研究を現地学生と共同で行っていました。プロジェクトを完成させるために、チームメイトの学生と休みを返上して研究に取り組むうちに、英語でも日本語でもロジカルに話を進めていく力がつかれました。また、留学先で感銘を受けたのは、現地の学生たちの優秀さ。勉強ができるだけでなく、多くの事



留学先の大学には世界中から留学生が来ており、インターナショナルデーなる文化交流もたくさんありました